

# 大気化学研究会ニュースレター

- No.11 -

Spring 2004

大気化学研究会からのお知らせ

## 第10回大気化学討論会のご案内

来る2004年6月23日(水) - 25日(金)の3日間、第10回大気化学討論会を下記の通り開催いたします。大気化学討論会では、対流圏および成層圏大気の化学・輸送過程について最新の研究成果を発表しあい、十分時間をかけて密度の濃い議論を行うことを目的としております。また、研究者どうしの情報交換を行い、それぞれの研究プロジェクトの相互理解を深める機会となるよう希望しております。

なお、今回の開催は、例年の温泉地での開催とは異なり、通常の学会形式にて東京大学・先端科学技術センターにての開催となります。

また、講演申し込みにつきましては、5月29日(土)に締め切りましたが、参加登録は当日まで受け付けております。奮ってご参加下さい。

日程：2004年6月23日(水)～25日(金)

会場：東京大学先端科学技術センター (〒153-8904 目黒区駒場4-6-1)

講演会場：4号館2F講堂、ポスター会場：3号館中2階

<http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/map/map-j.html>

講演申込締切：2004年5月29日(土)に切りました。

参加登録：参加をご希望の方は、電子メールで次の内容をご連絡下さい。

1)参加者氏名、2)所属(TEL、FAX、E-mail)

参加登録締切：当日まで受付

参加登録料(講演要旨集代を含む)：一般2,000円、学生1,000円

懇親会：6月24日(木)18:00時より。一般3,000円、学生2,000円程度

申込先：東京大学先端科学技術センター 近藤豊研究室

第10回大気化学討論会事務局 E-mail：[meeting@atmos.rcast.u-tokyo.ac.jp](mailto:meeting@atmos.rcast.u-tokyo.ac.jp)

TEL：03-5452-5146 FAX：03-5452-5148

世話人：東京大学先端科学技術センター 近藤 豊

なお詳細は、ホームページ<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>に掲載いたします。

## 東大先端研駒場リサーチキャンパスへのアクセス

教養学部駒場Iとは別キャンパスです。

小田急線 / 営団地下鉄千代田線

東北沢駅より徒歩7分

代々木上原駅より徒歩12分

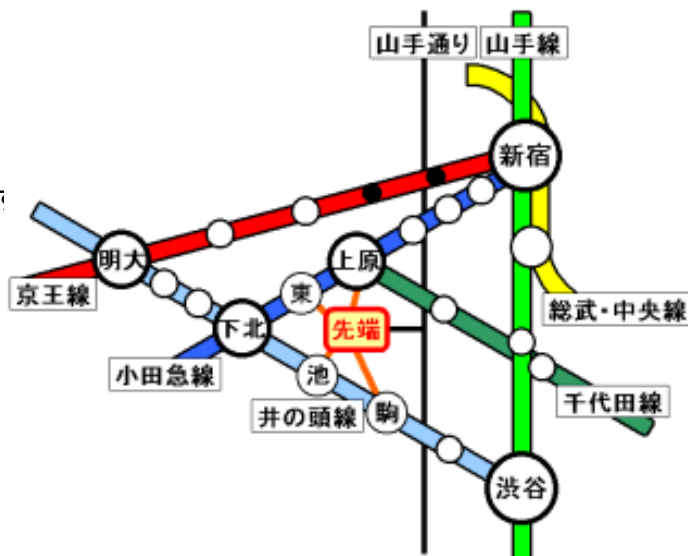
東北沢は小田急線各駅停車のみ止まりません

井の頭線

駒場東大前駅より徒歩10分

池の上駅より徒歩10分

両駅とも急行は止まりません



ポスター会場：3号館中2階



- 先端科学技術研究センター (RCAST)
- 先端経済工学研究センター (AEE)
- 生産技術研究所 (IS)
- 国際産学共同研究センター (CCR)
- 気候システム研究センター (CCSR)
- 人工物工学研究センター (RACE)
- 空間情報科学研究センター (CSIS)

講演会場：4号館2F講堂

懇親会会場：生協食堂

## 会場: 東大先端研(駒場リサーチキャンパス)案内図

### 第11回大気化学研究会運営委員会議事録

2004年1月7日(水) 19:00 - 21:00

豊川市民プラザ(大気化学シンポジウム会場)にて

出席者: 近藤豊(会長) 植松光夫、北和之、小池真、笠井康子、横内陽子、駒崎雄一、松見豊

1. 事務局(松見委員)より会員状況報告

15年度会員(平成15年12月16日現在)

一般 163人(新規30人 更新133人)

学生 53人(新規34人 更新19人)

計 216人(新規64人 更新152人)

(参考)14年度会員

一般 149人(新規16人 更新133人)

学生 40人(新規18人 更新22人)

計 189人(新規34人 更新155人)

2. 事務局(松見委員)より会計報告

収入: 会費収入

支出: 運営委員会会場費、ニュースレター費用、大気化学討論会への補助など  
 会員会費で運営ができています。

3. ニュースレターの発行について

ニュースレター編集委員（笠井、横内、駒崎）より予定記事の提案があった。研究紹介、会議の紹介・報告、若手ミーティングなど。

#### 4. 選挙管理委員の選出について

「大気化学研究会」規約に基づき、運営委員会において選挙管理委員を選出した。

委員長：小池真、委員：北和之、坂東博、今村隆史

#### 5. 次回の大気化学討論会について開催予定の紹介が担当の近藤会長より紹介があった。

期日：2004年6月23日（水）- 25日（金）

場所：東大先端研 4号館2F 講義室（口頭講演）3号館中2階テラス（ポスター）

各学会の協賛を担当の委員が行うこととした。

#### 6. IGBP/IGAC-II の活動について近藤会長から紹介があった。

#### 7. 大気化学研究会の今後の長期的なビジョンについて議論を行った。

将来、学会まで発展させる点について調査し、その可能性について引き続き検討することとした。

#### 8. 大気化学研究会運営委員の改選について議論を行った。

現在の運営委員の任期の終了（2005年3月）に向けて、運営委員の選挙を2004年10月ごろに会員による選挙を実施する。委員の任期について前回の選挙では特例を設けたが、次回も特例を作るのは望ましくない。任期についての規約改正を含めて、運営委員会で検討する。2004年6月大気化学討論会の際に臨時会員総会を開催して、運営委員の選挙に関する規約、選挙規約改正について諮ることとした。

## 第6回大気化学研究会会員総会議事録

2004年1月8日（木）16：40 - 17：20

豊川市民プラザ（大気化学シンポジウム会場）にて

以下の議題に対して報告および議論があった。

- 1) 会員・会計状況報告（事務局より）
- 2) 選挙管理委員の紹介
- 3) ニュースレターの記事の募集（編集委員長：笠井委員より）
- 4) 次回の大気化学討論会の概要について（担当：近藤会長より）
- 5) IGBP/IGAC-II について（近藤会長より）
- 6) 大気化学研究会の今後について（近藤会長より）
- 7) 運営委員の選挙について（選挙管理委員長：小池委員より）

内容は第11回運営委員会議事録とほぼ同じ。

（議事録作成：大気化学研究会事務局 松見 豊）

## 若手ショートレビュー募集のご案内

NL10号より、「若手研究ショートレビュー」の募集・掲載を始めました。

「若手研究ショートレビュー」の目的は以下の通りです。

1) 博士もしくはポスドク位の方が自分の研究・もしくはその周辺を含めたレビューを行う。

2) これらの研究経験を踏まえて感じた、今後の展望などのショートコメントを入れる。

これにより、若手研究者が多くの会員諸氏に意欲的に意見を述べる場として活用する。

投稿は、自由にご意見を述べる機会を平等に作るために、公募の形を取りたいと思います。詳細は大気化学研究会ホームページ<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>「若手研究ショートレビューの公募」をご覧ください。

投稿お待ちしております。

### 会員からのお知らせ・報告

## 「第14回大気化学シンポジウム」開催報告

東京大学先端科学技術研究センター・教授 近藤 豊  
名古屋大学太陽地球環境研究所・教授 松見 豊、水野 亮

2004年1月7-9日の3日間、豊川市民プラザ（豊川市）にて、「第14回大気化学シンポジウム」を開催しました。第14回目となる今回は、昨年より多くの164名の参加者（一般113名、学生51名）がありました。

シンポジウムでは、口頭講演37件およびポスター発表83件が行われました。口頭講演では一般講演のほか、成層圏と対流圏の大気化学・輸送過程について2つの特別セッションが企画されました。対流圏特別セッションは「大気化

学からガイア仮説を検証する」というテーマで開催され、2件の特別講演がありました。国際的な地球環境研究プロジェクトに少なからぬ影響を与えてきたガイア仮説について大気化学の立場から議論がありました。成層圏特別セッションは「対流圏から見た成層圏・成層圏から見た対流圏」というテーマで開催され、4件の特別講演がありました。成層圏中心に世界を広げるだけでなく、少し違った視点で外側からも成層圏を眺める機会を持つことを目的としており、活発な議論がありました。

ポスター発表は合計83件を数え、特に若手研究者による発表と活発な質問のやりとりに、シンポジウム開催中は合計5時間近くわたって、熱気にあふれたセッションとなりました。エアロゾル、地球温暖化、モデル計算、反応速度計測、装置開発など、テーマ別にじっくりと個別に議論を深めることができました。

現在、国内の大気化学研究者が一同に集う機会は非常に少なく、今後とも、このシンポジウムを通して、大気化学研究の最新の成果報告や情報交換、方向性・将来性を議論する場を提供していけるように、継続した開催を維持していきたいと考えています。

## 「大気化学研究の今後を考える会」のお知らせ

国立環境研究所 谷本浩志

名古屋大学 高橋けんし

地球フロンティア研究システム 金谷有剛

2003年5月28日、私たちは「大気化学研究の今後を考える会」を発起いたしました。近年の大気化学研究は発展著しく、地上・航空機観測、三次元モデル、衛星観測、室内実験などそれぞれのケイパビリティ向上によって、四者の統合による総合的な大気化学の研究プランニングとその解析が行われる段階になってきました。そこで、日本で大気化学研究を行っている若い研究者が現在何に興味を持っていて、今後何がおもしろそうで、どうしていきたいという希望があるかを自由闊達に意見交換し、研究計画とその実行戦略などを討論し、サイエンススティアリングを行える場を設けたいと考えています。また、日本で活動する研究者が集い、研究活動と密接に繋がっている大気化学研究会の今後の在り方や方向性についても積極的かつ建設的に議論できれば、と考えております。

その第一歩として2004年1月7日、第14回大気化学シンポジウムに際してプレミーティングを行い、発起の趣意説明を行うとともに今後の活動を具体的に話し合う場を設けました。若手研究者から学生まで30名程度の参加者があり、会の趣旨や方針、活動スタイルについてさまざまな意見が出されました。現在、コアメンバーを中心にして「大気化学：分かったことと分かっていないこと」をテーマに第一回目の企画を立案しております。引き続き、意欲のある若手の方の参加を期待しています。不明な点等ございましたら遠慮なくご質問ください。なお、詳細はホームページ <http://www.lidar.nies.go.jp/~tanimoto/ACRfuture/index.html> にてご覧いただけます。

大気化学研究の今後を考える会 第一回ミーティング

日時：2004年6月22日（火）10:00-

場所：東京大学先端科学技術研究センター

（大気化学討論会と同じキャンパスで行います。会場は未定。）

議論テーマ：「分かったことと分かっていないこと：対流圏オゾン」

発行：大気化学研究会ニュースレター編集委員会（笠井康子、横内陽子、駒崎雄一）

連絡先：〒442-8507 豊川市穂ノ原3-13 名古屋大学太陽地球環境研究所 第一部門気付 大気化学研究会事務局

電話 0533-89-5192、ファックス 0533-89-5161、電子メール [taikiken@stelab.nagoya-u.ac.jp](mailto:taikiken@stelab.nagoya-u.ac.jp)

ホームページ：<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>

（大気化学研究会ニュースレターNo. 11の発行が予定日より遅れましたことを、編集委員からお詫び申し上げます。）